

# ただいま子育て奮闘中



## 高橋 剛

群馬大学大学院理工学府分子科学部門  
[376-8515] 桐生市天神町1-5-1  
准教授, 博士(工学).  
専門はペプチド・タンパク質工学.  
ttakahas@gunma-u.ac.jp

7年ほど前に結婚したときの最初の問題は、どこに住むかでした。幸いにも、妻の職場（東京の有明）と地下鉄で2駅の場所にあった、筆者の当時の勤務先の教員用宿舎（品川区）に入ることができました。その後、5年前に娘が生まれましたが、その頃はちょうど、待機児童の問題がクローズアップされはじめた時期でした。品川区は比較的待機児童が少ないほうだったと思いますが、それでも国の認可保育園には入ることができず、東京都が独自に行っている認証保育園に入れることにしました。子供もすぐに保育園になじみ、妻も職場に復帰しはじめた時期と前後して、筆者は現在の職場である、群馬大学の桐生キャンパスに異動することになりました。桐生市は、群馬県の東に位置し、東京からは大分遠くなります。このとき、単身赴任することも考えましたが、生まれたばかりの子供と離れるのも寂しかったので、結局、両者がなんとか通うことができるであろう、埼玉県の熊谷市に住むことにしました。実際、熊谷と桐生は、国道407号線などを使うと1時間半はかからずに通勤できます。一方妻のほうは、新幹線を使っても、職場まで1時間半以上かかり、負担が激増しました。

さて、子供の保育園の問題ですが、東京都よりは熊谷市のほうが少し待機児童の数が少なかったことが幸いし、なんとか認可保育園に入ることができました。ただ、保育園を調べていたときに、品川区の保育園と比較して気づいたことがありました。それは、夜の延長保育の時間が短いところが多いことです。また、実際に保育園に問い合わせると、市のホームページなどに記載されている延長保育の時間よりも、実際にはもっと早い時間で終了しているなど、実情が違ってあるケースもあるらしいことがわかりました（5年前の話なので今は違うと思います）。新幹線通勤の場合、一本乗り遅れると大変なことになるため、延長保育の問題が保育園選びのポイントとなりました。現状は、おもに私が朝保育園に子供を連れて行き、妻が迎えに行くという生活スタイルをとっています。このような生

活をしていると、親子3人で過ごす時間がどうしても少なくなってしまうため、親子3人そろって食事をすることを楽しみにしていたりします。また、段々と子供も賢く(?)なり、うまいこと父・母の前で自分を使い分けたりなど、大人顔負けの一面も見せはじめています。

今のところ、このような生活を維持してなんとかやりくりしていますが、今後継続していくことができるものか、?だらけです。あと2年もすると、俗に言う小1の壁にぶち当たります。多くの学童保育は、18時前後までとなっているため、保育園に預けていたときのようにはいかなくなります。また、この4月に2人目が生まれたことも、状況を大きく変動させていくことと思います。それでも、今のところは単身赴任せずに、家族全員で暮らす道で突っ走ろうとだけは思っています。

最後に、男女共同参画の観点から、日頃感じていることを少しだけ述べます。保育園の送り迎えをしているときや、平日に行われる保育園の行事（遠足など）に参加したときの印象として、男性の保護者の参加率がまだまだ低すぎる（だいたい1~2割）と思います。筆者の感じたこの印象が、「子育て」における男性の貢献度の低さと、どこまで相関しているかはわかりません。しかし、共働き家庭が利用している保育園ですので、保育園の送り迎えなどは、男親の参加率が5割でもいいはずですが。群馬大学の「まゆだまプラン」をはじめ、多くの大学が女性研究者の育成や研究活動の支援に力を入れていますが、やはり「子育て」の部分で女性に対する負担を減らしていく努力をもっともっと「社会全体」でしていく必要があるのではないのでしょうか。いまだに、保育園や学童保育に関するホームページでも、なぜか閲覧者が母親であることを前提としたものが普通にあたりします。イクメンなどと呼ばれなくとも、男親がもっと当たり前「子育て」する社会が実現してこそ、少子化問題も少しは改善し、女子学生たちも積極的に研究者になる道を選ぼうと考えるようになるのではないのでしょうか。